

# D10 深層インタラクション

## アバター共生社会プロジェクトの社会実装に向けて

### 概要

アバター共生社会プロジェクトでは、人がサイバネティックアバター(CA)を使って自在に活躍する社会(アバター共生社会)の実現を目指しています。ここでは研究開発と並行して進めている社会実装のための取り組みとして、実社会実証実験とアバター共生社会企業コンソーシアム(C-CAS2)について紹介します。

### 特徴

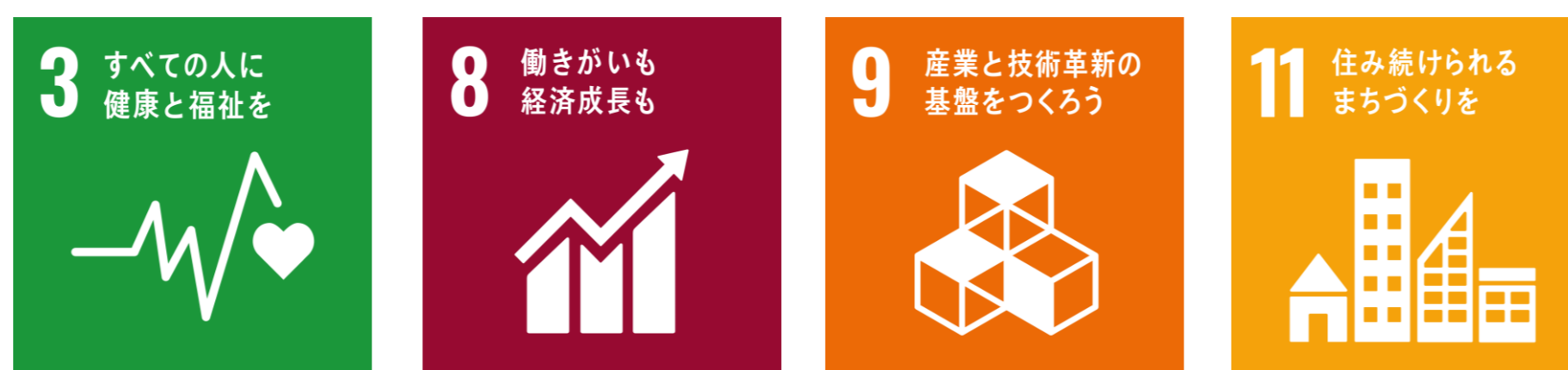
- 実社会でCAを活用する実社会実証実験を実施しています。CAの実社会での使い方を実験的に市民に試してもらい、その結果を研究開発にフィードバックすると共に、社会的受容性について多くの意見をもらいます。
- アバター市場の創出と、本プロジェクトの研究者・技術者との共同研究の促進を目的として、「アバター共生社会企業コンソーシアム(略称:C-CAS2)」を2021年8月に設立しました(会員数:107法人(2023年8月末現在))。
- 市民がCAを体験して社会的受容性を検証するアバター100実証実験『アバターまつり』を、アジア太平洋トレードセンター(ATC、大阪市住之江区)にて実施し、2,000人以上の参加者にCAの遠隔操作や対話を体験していただきました。

### 今後の展開

- 様々な業種や業態の事業をCA化(サイバネティックアバタートランスフォーメーション(Cybernetic Avatar Transformation)、AX)することで、社会の様々な場面で、人々が自在に働き、暮らしを楽しむことができる社会を目指します。

### テーマ「ともに究め、明日の社会を拓く」との関連

- 実社会実証実験とアバター共生社会企業コンソーシアムを連携させ、アバター共生社会を、研究者・企業・市民が先取りして体験し、CAの是非を考えること(バックキャストिंग)によって、ともに明日の社会を拓いていきます。



連絡先: インタラクション技術バンク 担当 堀川 優紀子 E-Mail: horikawa@atr.jp

本研究は、JSTムーンショット型研究開発事業 JPMJMS2011 の支援を受けたものです。